



蓮也は幼少の頃、教育係のゼイソンから世界の様々なことを教わった。  
今回は『種族論』についてのお話し。

ゼイソン

「今日は種族についてお話ししましょう」

蓮也

「種族？なんか面倒臭そうだな」

ゼイソン

「一応、覚えておくと、何かの役に立つかもしれませぬぞ」

蓮也

「じゃ、役に立たないかもしれないってことか」

ゼイソン

「・・・おほん」

「とりあえず、今日の講義をはじめますじゃ」

「このムーガイアには四大種族がいましたですじゃ」

「それがノーム・エルフ・ドワーフ・シルフの四つです」

「それぞれ、属性があり、地・水・火・風となっております」

蓮也

「ふーん」

「“いました” ってことは、今はいないのか？」

ゼイソン

「はい、今は殆どいませんですじゃ」

蓮也

「なんでだ？」

ゼイソン

「古代に混血したからですじゃ」

蓮也

「混血するとどうなるのだ？」

ゼイソン

「各種族の能力が平均化し、能力特徴がなくなりますが、頭脳が発達します。その種族をヒトと言い、それが我々ヒト族、人間なのですじゃ」

「ちなみに、人間の身体的特徴は様々にでます。それこそ、始祖王は桃色の髪の毛だったという伝説ですじゃ」

蓮也

「俺の髪の毛がピンクじゃなくてよかったぜ・・・」

「そーいや、この前爺から地水火風のエレメンタルを統合すると「空属性」になると聞いたが、人間は空属性を使いこなすのか？」

ゼイソン

「潜在的には空属性の能力があるのですが、それを使いこなすにはかなりの修行が必要となりますじゃ。殆どの人間は使えないと言ってもよいでしょうな」

蓮也

「うーむ、そうなのか」

「混血したら全部つえーといいんだけどな」



ゼイソン

「その全ての能力値を高め、更に統合するのが、若の持つインテグリストのペルーフ（天職）なのです」

蓮也

「おお～」

少し休憩を挟み、再びゼイソンの講義が開始される。

『種族概論』が終わり、やや実践的な講義となっていく。

ゼイソン

「各種族によって能力が違います。例えば、エルフは魔法が強く、ドワーフは戦闘が強いというようになっていますじゃ」

「ですから魔法が得意な者はエルフの血量が多く、戦闘が得意ならドワーフの血量が多い、となります」

蓮也

「そんなのどうやってわかるんだ？」

ゼイソン

「そうですね・・・」

ゼイソンは兜をとり、白くなった髪の毛をかき分けた。

蓮也

「あれ、爺の耳、とんがってるぞ！」

「そして、青い髪の毛があるぞ！」

ゼイソン

「これは私がエルフの血量が多い可能性があるですじゃ」

「エルフの属性は水なので、肌は青白く、髪の毛も青い者がいます」

蓮也

「ふむふむ」

ゼイソンは蓮也を教練所へ連れて行く。

そこではアイン・バラン率いるプレアデス重装兵団が訓練をしていた。

ゼイソン

「あのように筋肉質で身体が多い場合、ドワーフの血量が濃い可能性があります。ドワーフは火の属性なので、髪の毛は燃えるような赤で、肌は褐色ですじゃ」

次はプリースト部隊を見る。

ゼイソン

「ヒーラー・プリースト部隊は、神聖力が高いノームの血量が多いですじゃ。ノームは土属性なので、髪の毛は黄色・金髪、肌は黄色ですじゃ」

そして遊撃部隊を蓮也に見せる。

ゼイソン



「遊撃部隊は足の速いものを集めます。ですから、シルフの特徴が出やすいと言えます。シルフは風属性で、髪の毛がグレーです。身体はやや小さく細身ですが、身体は引き締まっております」

と、このようにゼイソンは蓮也に種族の説明をした。

ゼイソン

「我々、人間は、これらの特徴が様々に出ます。ですから私のように、耳や髪の毛はエルフ、体型はノームと言うような場合もあります。そこにベルーフや後天的な鍛錬や武具属性なども入りますので、能力は様々に細分化します」

蓮也

「んで、俺はどの種族が出ているんだ？」

ゼイソン

「若は、髪の毛はシルフ、肌はエルフ、表情はややノーム寄り、身長は子供にしてはまあまあ高いのでドワーフも少し入っているかもしれませぬの」

「しかし、若が得意とするのは風属性魔法、次に火属性魔法です。ここから見ると、シルフとドワーフの力が強いとも見えますすじゃ」

「ですから、法則通りに出るとは限りませぬ」

蓮也

「よし、とりあえず俺は全部の特徴を持っているんだから、全部の魔法を習得するぜ！」

ゼイソン

「だったら授業を遅刻したり、サボってはいけませぬぞ」

蓮也

「だって、妖精が遊びに来いって言うんだよ」

ゼイソン

「若、この爺を老いぼれと思ってそんな嘘をついてもダメですぞ w」

蓮也

「ホントだって」

蓮也は妖精ポコーと出会って、たまに城の外の古池に遊びに行っているようであった。

この世界の人間たちは、四大種族が混血したとされている。そのため、その人のベルーフを決める場合、こうした特徴をもとにすることもある。そして、人間を合わせると五大種族となる。これがこの世界の『種族学』の基礎である。

この五代種族の他には、小人族・巨人族という変異種族がいる。

ドワーフ同士の特徴が更に色濃くでると巨人族となり、ノーム同士が変異すると小人族になる。

また、人間が悪魔・魔族と呼ぶのは、動物から進化した半獣・竜族などである。

そして、妖精や天使と言った人智を超えた存在もいるとされる。

以上の種族の特徴を以下に記しておく。

## 【パラメータ】



高い SS>S>A>B>C>D>E 低い

【各種族】

シルフ

特徴：風の属性。身体はやや小さく素早い。目は切れ長でつり目、口が小さい。

腕力：D 体力：D 素早さ：SS 賢さ：A 魔力：B 神聖力：D 運：B

ドワーフ

特徴：身体が大きく筋肉質。褐色の肌。ギョロリとした目でいかつい顔つき。

腕力：S 体力：S 素早さ：D 賢さ：E 魔力：E 神聖力：E 運：D

エルフ

特徴：身体が細い。色白。耳が尖っている。目は大きくつり目で口が小さい。

腕力：E 体力：E 素早さ：D 賢さ：S 魔力：SS 神聖力：A 運：B

ノーム

特徴：身長は低く、ややぽっちゃり。肌は黄色っぽい。目は丸くやや垂れ目で、優しい顔立ち。

腕力：C 体力：C 素早さ：C 賢さ：B 魔力：D 神聖力：S 運：B

ヒト

特徴：体型は全て普通。頭はいいが、あとは全て平均的。

腕力：D 体力：D 素早さ：D 賢さ：SS 魔力：E 神聖力：E 運：C

小人

特徴：身体が小さい。

腕力：E 体力：E 素早さ：B 賢さ：B 魔力：D 神聖力：S 運：A

巨人

特徴：身体が大きい。

腕力：S 体力：SS 素早さ：E 賢さ：E 魔力：E 神聖力：E 運：E

ゴーレム

特徴：身体はやや大きめで目が大きい。

腕力：C 体力：A 素早さ：D 賢さ：E 魔力：D 神聖力：D 運：D

半獣

特徴：動物の能力を持っている。

腕力：A 体力：B 素早さ：A 賢さ：E 魔力：B 神聖力：E 運：E

妖精

特徴：特定の者しか見ることができない。



腕力：E 体力：E 素早さ：A 賢さ：D 魔力：B 神聖力：B 運：SS

### 天使

特徴：徳があり神々しいオーラを放つ。

腕力：D 体力：D 素早さ：A 賢さ：S 魔力：E 神聖力：SS 運：S

### 竜族

特徴：爬虫類から進化した知的生命体。

腕力：SS 体力：B 素早さ：A 賢さ：C 魔力：S 神聖力：E 運：C

### 【解説】

ここで描かれている種族の身体的特徴は架空のものです。ファンタジーの世界の話なので、このような種族は存在しません。